

5. 校区别まちづくり懇談会の結果

5.1. 地区別まちづくり懇談会の概要

(1) 目的

各地区の地区代表者に対し、地区の状況（現状、課題、望まれる方向性）について聞き取りを行なうことで、まちづくりの課題抽出を行うことを目的とする。

また、平成 17 年の 4 町合併により小城市が誕生し、旧町や校区の範囲にとらわれな
いまちづくりを推進するためにも、当該地区だけではなく、市全体の状況に関しても
聞き取りを実施する。

(2) 懇談会テーマ

テーマ 1：当該地区のまちづくりの課題と方向性

テーマ 2：市全体のまちづくりの課題と方向性

(3) 実施スケジュール

地区別懇談会は、平成 24 年 7 月下旬から 8 月上旬にかけて実施した。

表 5-1 地区づくり懇談会の実施スケジュール

月日	地区名	会場
7 月 25 日（水）	桜岡地区	小城公民館 小会議室
7 月 31 日（火）	岩松地区	岩松支館 研修室
	晴田地区	晴田支館 研修室
8 月 1 日（水）	三里地区	三里支館 研修室
	三日月地区	ドゥイニング三日月 大会議室西
8 月 7 日（火）	牛津地区	議会棟 2-2 会議室
	砥川地区	議会棟 2-2 会議室
8 月 8 日（水）	芦刈地区	芦刈地域交流センター 会議室 A

(4) 参加者

各地区の懇談会参加者を表 5-2及び表 5-3に示す。参加者は合計 51 名であった。

表 5-2 懇談会参加者一覧（1 / 2）

まちづくり懇談会 参加者名簿

役職	校区	行政区	氏名	出欠
桜岡校区会長	桜岡	不二町	川口 義明	○
桜岡校区区長会 副会長兼会計	桜岡	鯖岡	藤本 義行	○
小城商工会議所 女性会 会長	桜岡	小城本町	岩野 博子	○
小城市農政審議会委員	桜岡	上町	木村 スマ子	—
小城商工会議所 会頭	桜岡	上町	村岡 安廣	○
桜岡校区区長会 副会長	桜岡	布施ヶ里	藤川 博康	—
小城商工会議所 青年部 副会長	桜岡	北小路	納富 範郎	—
CSO市民活動センターようこそ	桜岡	西小路	今井 泰子	—
岩松校区区長会 副会長兼会計	岩松	永泉寺	森永 利男	○
小城市農業委員会委員 副会長	岩松	江里口	江里口 勇	○
岩松校区会長	岩松	二瀬川	中島 秀俊	○
小城市男女共同参画ネットワーク 副会長	岩松	馬場	半田 幸子	○
小城市農政審議会委員 会長	岩松	馬場	陣内 芳治	○
岩松校区区長会 副会長	岩松	北浦	鬼塚 謙治	○
岩松全体協議会 会長	岩松	江里山	岡本 力男	○
岩松全体協議会 副会長	岩松	須の木	野田 一夫	○
小城市農政審議会委員	晴田	寺浦	中村 和人	—
小城市地域婦人会 常任理事	晴田	出分	副田 郁子	○
小城商工会議所 青年部 副会長	晴田	砂田	松尾 裕之	○
晴田校区区長会 副会長	晴田	西谷	大園 義孝	○
小城町会長(晴田校区会長)	晴田	畑田	大家 和義	○
晴田校区区長会 副会長	晴田	本山	眞子 博文	○
晴田振興会 会長	晴田	中善寺	眞子 公敏	○
晴田振興会 副会長	晴田	鷺ノ原	松本 貞則	○
晴田校区区長会 会計	晴田	宿	北島 雅義	○
三里校区区長会 会計	三里	下久須	江頭 大樹	○
小城市地域婦人会 常任理事	三里	久蘇	中島 サワ子	代理:吉田静江
小城市農政審議会委員	三里	響ヶ里	川久保 悟	○
三里校区区長会 副会長	三里	小隈	江頭 茂樹	—
三里校区会長	三里	船田	鏡山 均	○
三里校区区長会 副会長	三里	湯谷	御厨 和彦	—
三里振興会 会長	三里	坂井	富永 正樹	○
三里振興会 副会長	三里	下久須	深河 文雄	○

表 5-3 懇談会参加者一覧（2 / 2）

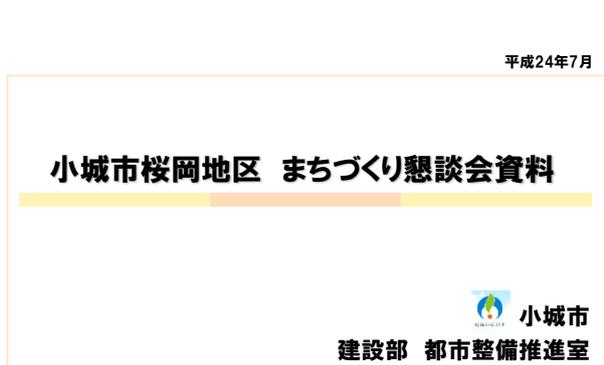
まちづくり懇談会 参加者名簿

役職	校区	行政区	氏名	出欠
小城市 民生委員・児童委員連絡協議会 副会長	三日月	戊	中原 照夫	○
小城市男女共同参画ネットワーク 理事	三日月	吉原	島田 美和子	○
小城商工会議所 青年部 会長、前副会長	三日月	久米	本村 茂則	—
三日月町会長(3区会長)	三日月	久米	今村 力哉	○
三日月町副会長(1区会長)	三日月	袴田	納富 和幸	○
小城市農政審議会委員	三日月	江口	藤木 智恵子	○
三日月町副会長(2区会長)	三日月	深町	松尾 良満	○
CSO市民活動センターようこそ運営協議会運営委員長	三日月	樋口	小柳 義則	○
牛津町会長	牛津	天満町	本村 廣太	○
牛津芦刈商工会 青年部 部長	牛津	下江良	片淵 勲	—
牛津芦刈商工会 会長	牛津	江津	城島 守洋	○
牛津芦刈商工会 女性部 部長	牛津	江津	大坪 鈴代	○
小城市 民生委員・児童委員連絡協議会 副会長	牛津	天満町	原口 豊秀	○
小城市男女共同参画ネットワーク 会長	牛津	天満町	西岡 久富美	○
小城市農政審議会委員	牛津	友田	大坪 由久	○
牛津町副会長	牛津	練ヶ里	永淵 昭	○
牛津町副会長	砥川	泉	大江 哲也	○
小城市男女共同参画ネットワーク 理事	砥川	砥川町	吉武 タツ子	○
小城市地域婦人会 常任理事	砥川	内砥川	岸川 イツエ	—
小城市地域婦人会 常任理事	砥川	内砥川	乙成 千秋	—
小城市農業委員会委員 会長	砥川	内砥川	貝原 敏正	○
小城市農政審議会委員	砥川	内砥川	松尾 正紀	—
小城市農政審議会委員	砥川	内砥川	古賀 晴美	○
小城市消防団 団長	砥川	寺町	秋丸 政光	○
小城市 民生委員・児童委員連絡協議会 会長	芦刈	浜中	水田 善久	○
小城市地域婦人会 会長	芦刈	芦刈中村	古川 恭子	代理:島松喜久子
芦刈町会長(下)	芦刈	永田南	釘本 萬壽美	○
小城市農業委員会委員	芦刈	下古賀	古賀 広美	○
芦刈町会計(中)	芦刈	牛王	楠田 安正	○
牛津芦刈商工会 副会長	芦刈	住の江西	大井手 清隆	—
芦刈町副会長(上)	芦刈	町分	田中 和夫	—
CSO市民活動センターようこそ運営協議会広報部会	芦刈	町分	古川 教子	○
			参加者	51名/65名

(5) 懇談会での配布資料

- ・ 次第
- ・ 【本資料】 小城市〇〇地区まちづくり懇談会資料
- ・ 【参考資料1】 区長アンケート集計結果
- ・ 【参考資料2】 市民アンケート集計結果
- ・ 【参考資料3】 小城市都市計画マスタープランの概要
- ・ 意見提出シート

以下では、サンプルとして、桜岡校区まちづくり懇談会の【本資料】を示す。



I. はじめに

1. 社会背景

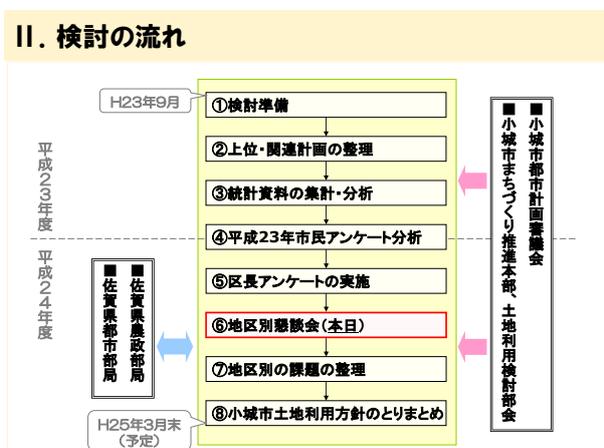
- 少子高齢化の進展、本格的な人口減少社会の到来
- 長引く景気低迷等に伴う厳しい財政状況

集約型まちづくりへの転換期

2. 小城市のこれまでの取組と本検討の目的

- 平成19年 小城市総合計画
: 「計画的な土地利用の推進」や「市街地の整備」を施策として位置づけ
- 平成20年 小城市都市計画マスタープラン
: 市全体として目指すべき総合的なまちづくりの方針を明確化

実行性のある土地利用の運用指針を作成



III. 地区懇談会について

1. 懇談会の目的

- 地区代表者である皆様に対し、**地区の状況（現状、課題、望まれる方向性）をお聞き**することで、まちづくりの課題抽出を行うことを目的とします。
- 平成17年の4町合併により小城市が誕生し、旧町や校区の範囲にとらわれないまちづくりを推進するためにも、当該地区だけではなく、**市全体の状況に関するご意見についてもお聞き**します。

2. 懇談会のテーマ

テーマ①：当該地区のまちづくりの課題と方向性（40分）

テーマ②：市全体のまちづくりの課題と方向性（40分）

IV. 市全体として目指す土地利用の方向性

- > 拠点地区の充実及び連携・ネットワーク型のまちの形成
- > 適正な土地利用の誘導による暮らしやすいまちの形成
- > 豊かな田園環境・自然環境の保全と活用

(※小城市都市計画マスタープランより)

V. 地区別の課題

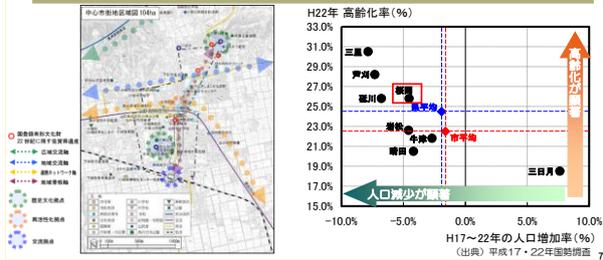
地区別の課題について、次の3つの方法により抽出・整理を実施しました。

1. 上位計画(事業)や統計データから把握される課題
2. 市民アンケートから把握される課題
3. 区長アンケートから把握される課題

V. 地区別の課題

1. 上位計画(事業)や統計データから把握される課題

- H20年都市計画MPで**中心拠点**と位置づけられており、**地域の特徴を活かした交流人口の拡大、魅力的で暮らしやすい都市・商業機能の充実**が求められています。
- 人口減少と高齢化が進行**している地区であり、定住人口の確保等に向けた対策が求められています。



V. 地区別の課題

2. 市民アンケートから把握される課題

- 住民アンケートでは、当該地区では、**以下の施策に対する満足度が低い**ことが把握され、『下水道の整備』、『商工業の振興と新産業の育成』等の満足度向上に向けて対策が求められています。

<満足度の低い上位5つ>

【当該地区】

- 1位 下水道の整備
- 2位 商工業の振興と新産業の育成
- 3位 雇用促進と勤労者福祉の充実
- 4位 計画的な土地利用の推進
観光の振興

【市全体】

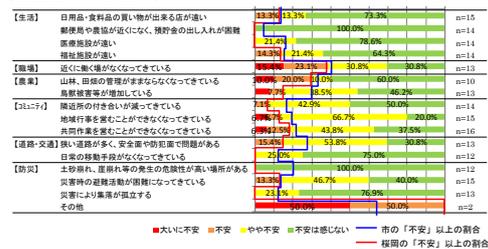
- 1位 雇用促進と勤労者福祉の充実
- 2位 商工業の振興と新産業の育成
- 3位 市街地の整備
- 4位 計画的な土地利用の推進
- 5位 住宅環境の充実

V. 地区別の課題

3. 区長アンケートから把握される課題

- 桜岡小学校区では、市平均よりも不安を感じる割合がすべての項目において低くなっています。**不安の上位では、「近くに働く場がなくなっている」、「山林・田畑の管理がままらなくなっている」**の傾向が高くみられます。

【居住継続の不安要素】

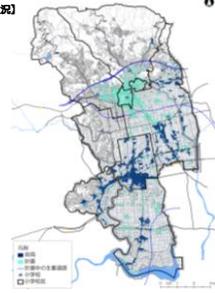


V. 地区別の課題

1. 上位計画(事業)や統計データから把握される課題

- 現在、**公共下水道はほぼ地区全域で未整備の状態**であり、その対策が求められています。

【公共下水道の整備状況】



V. 地区別の課題

3. 区長アンケートから把握される課題

- 区長アンケートの結果からは、地域として誇るべき資源、活用可能な資源、残したい伝統文化として下表の回答がありました。これらの**地域資源を有効に活用するとともに、将来に引き継いでいく**ことが求められています。

<区長アンケートで得られた主な資源>

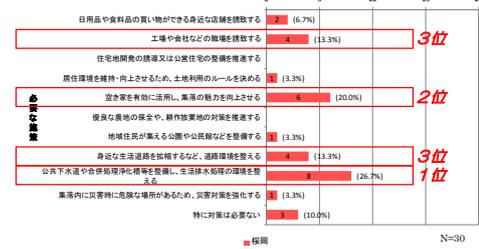
誇るべき資源	楠の大木、布施公民館隣の川、子安の観音様、乙吉神社、恵美須神社、大日社、藩校興譲館跡、サヤノ神さん
活用可能な資源	空き家、空き地
残したい伝統文化	山曳祇園、天満宮お下り祭り、天満宮夏祭り、天満宮しめ縄祭り、大般若祭、シャンシャン祭り、ごらくまつり

V. 地区別の課題

3. 区長アンケートから把握される課題

- 桜岡小学校区では、「**公共下水道や合併処理浄化槽等を整備し、生活排水処理の環境整備**」、「**空き家を有効に活用し、集落の魅力を上向**」、「**工場や会社などの職場を誘致**」等が必要な施策の上位となっています。

【土地利用や施設整備面で必要な施策】



5.2. 地区別まちづくり懇談会結果のまとめ

5.2.1. 土地利用上留意すべき主な意見の整理（懇談会結果の概要）

地区別懇談会で得られた意見のうち、**土地利用上特に留意すべき意見について各地区3つのポイント**に整理した。

また、各地区において地域コミュニティに関する課題が顕在化していることが把握され、土地利用と地域コミュニティの施策（拠点形成・交通）は一体的に推進するべきと考えることから、下記の3つのポイントの中には、土地利用に加え、**地域コミュニティの視点も含めて整理**している。

※詳細は、5.14ページ以降に記載の「議事要旨」参照。

(1) 桜岡地区

- ① 小城高校への通学者など多くの利用がある **J R小城駅や小城公園周辺が桜岡地区の核となるエリア**であり、また、旧小城町の中でも桜岡地区は**歴史的・地理的・心理的に住民が集まりやすい中心地区**である。
- ② 桜岡地区は小城市の中心拠点であるため、**小城の歴史・文化を活かしつつ、小城市全体に対して拠点性の高い施設・空間が必要**であり、また、小城公園といった**既存の都市施設の利用性を高める**ことが求められている。
- ③ 1年を通じて祭りがあり、**子供が主役になることで地域継承がうまくいって**いたが、新たな住民の転入、地域活動と地区区分の不整合、人口減少・高齢化の影響により、**地域コミュニティに支障**をきたすようになっている。



【桜岡地区懇談会の様子】



【小城駅周辺の町並み】

市全体のまちづくりに対する主な要望

- ・ 市全体に対する中心拠点としての機能の向上・維持が必要である。

(2) 岩松地区

- ① **岩松地区内の中心拠点は岩松支館周辺**であり、小城市中心市街地、三日月の商業地区、平松病院等に近接していることから**利便性は高く、住宅系の開発エリアとして適している**。
- ② 地域振興や農業振興のためには、**若者の流出を食い止めることが最優先**であり、そのためには**市内に職場を確保**すべき。**スマートＩＣの周辺の田園環境に配慮**しつつ、小城蛸の郷ファクトリーパーク等への**企業誘致、市内外のネットワークづくりへとスマートＩＣを活用**することが必要。
- ③ コミュニティ維持のための中心は祭りであるが、**新旧の住民が混住することで、祭りに対する意識の差が生じている**。本日の地区懇談会のように、**地域コミュニティを醸成・活動する機会を継続して確保**していくことが必要。



【岩松地区懇談会の様子】



【岩松支館周辺の新興住宅地】

市全体のまちづくりに対する主な要望

- ・ 運動公園建設跡地は、土地利用利用上重要な資源であり、利活用を十分に検討頂きたい。

(3) 晴田地区

- ① 生活利便施設（スーパー等）の誘致や観光開発を進めるため、**景観面や防災面に配慮しつつ、県道天山公園線等の主要な道路沿線、拠点地区、I C周辺での農振解除が必要**である。
- ② **晴田支館は地域コミュニティを支える重要な施設**であり、また、**支館周辺地区は晴田の中心拠点**でもあることから、**支館及び周辺の機能（生活面、コミュニティ面、防災面）を充実化**させるべきである。
- ③ 晴田地区は、災害の多い地区であり、**避難場所の適正配置、設備の充実、避難路の整備、明確化が必要**。あわせて、災害発生時に住民がとるべき行動が具体的に分かるよう、行政からの的確な避難指示も必要。



【晴田地区懇談会の様子】



【天山公園線沿道】

市全体のまちづくりに対する主な要望

- ・ 運動公園建設跡地について 10 年近く進展していないことが問題であり、早急に整備を進めて頂きたい。
- ・ 三日月への本庁舎の新設に合わせて、本庁舎周辺への機能集約の観点から周囲数百メートルの農振は解除したほうがよい。
- ・ 市の一体性を強化する交通ネットワーク（南北方向軸）の形成と補助線の整備が必要である。

(4) 三里地区

- ① 市内でも特に人口減少が著しい三里地区では、**ファミリー層の定住促進が必要**であり、住宅購入に対する優遇策、空き家バンクの活用に加え、**集約拠点内での居住や教育（児童一時預かり所等）の機能強化**が求められる。
- ② 例えば、下右原や河川合流部付近などにおいて、**晴気川と牛津川に起因する水害が多く発生**しており、**国や県行政とも連携して、地域防災を強化**することが求められている。
- ③ 子供や若者が減少する中、**伝統ある祭りの存続、地域の維持管理活動が困難**になりつつあり、また、**地域にある団体（消防団、婦人会、老人会等）の活動性が低下**している。地域としては、三里支館といった場を活用しつつ、三里独自の活動・事業を行なっていきたいという意向を有している。



【三里地区懇談会の様子】



【三里小学校周辺の様子】

市全体のまちづくりに対する主な要望

- ・ 元広域農道の市道を県道に昇格させ、道路（歩道）の整備をお願いしたい。

(5) 三日月地区

- ① 田園風景などの保全するエリアと地域の生活利便性を高めるためのエリアをしっかりとゾーニングし、**土地利用の混在は避ける**必要がある。開発したいが農振によって規制されている地区がある一方で、白地地域でも長年開発がされていない地区もあり、国、県と調整しつつ、**農振の見直し、組み換えが必要**である。
- ② **三日月地区の中心は庁舎周辺**であり、新庁舎の移転に合わせて、**庁舎周辺に金融機関など生活利便施設を集約させるまちづくり(面整備)**が必要である。
- ③ 三日月地区は新住民が多いが、自治会が主体となり、一緒になって伝統文化に取り組むことができている。しかし、アパートが多い集落では、アパートの方々との地区運営が難しく、**コミュニティを維持するためには定住割合を高める**ことが必要である。



【三日月地区懇談会の様子】



【農地と住宅地とが混在する地域】

市全体のまちづくりに対する主な要望

- ・ 小城市内のどのエリアに重点を置いたまちづくりをするか明確にするべきである。

(6) 牛津地区

- ① 牛津庁舎がなくなると、牛津地区では、**牛津駅北口から踏切を渡って南側への繋がる商店街が地区の中心地**であり、**牛津駅南地区は開発エリアとして整備**を推進することが必要である。途中で途切れている道路の延伸、住宅地（市営住宅）開発、駅南口の新設等の整備を進めるべき。
- ② **牛津庁舎跡地は、長崎本線のJR牛津駅、2つの国道に近接している一等地**であり、市民の**交流拠点、公共公益拠点、福祉・医療拠点など、立地の有意性を最大限活かした土地利用**が求められる。跡地問題は住民の関心が高いため、**優先的に整備推進**が求められる。その際、庁舎跡地利用検討委員会の設置が望まれる。
- ③ 区長会や商店街の要望など、**市民意向を行政に伝える機会や、市民同士のコミュニティ活動の場が必要**。本日のような協議を地区単位で継続して開催していくことが望まれる。



【牛津地区懇談会の様子】



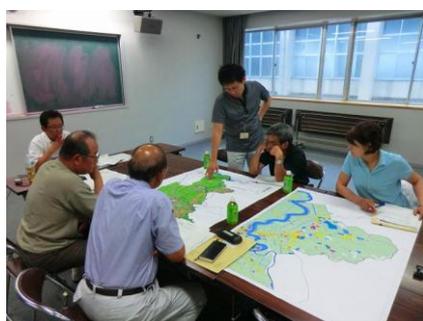
【途中で途切れた牛津駅南の道路】

市全体のまちづくりに対する主な要望

- ・ 地域拠点としての整備（庁舎跡地）、商店街、牛津駅周辺の開発が必要。

(7) 砥川地区

- ① 若者が流出することで、農業や地域コミュニティの担い手が不足している。
定住人口を増加させることが喫緊の課題であり、分譲住宅の開発、地元採用のある企業の誘致等の施策が必要である。
- ② **砥川地区内の中心地が明確ではなく**、地区全体としての地域活動の機会も少ないため、自立的に地区運営を進めるための体制や拠点整備が必要である。
- ③ 砥川地区は**水害が発生**し、例えば、九州北部豪雨では、牛津川のポンプ場の故障によって、国道 34 号付近あるいは国道よりも南側の地域が浸水した。そのため、**避難所の適正配置や建物構造の工夫が必要**である。



【砥川地区懇談会の様子】



【石工の里 ふれあい夕市】

市全体のまちづくりに対する主な要望

- ・ 若者の流出により農業を引き継ぐ人は少なく、若者をいかに引き留めるかという観点で農業施策を行って頂きたい。

(8) 芦刈地区

- ① **開発するエリアと農地や自然環境を保全するエリアを区分**する必要がある。
開発を誘導すべきエリアとして、例えば、県道牛津芦刈線と国道 444 号バイパスの交差点から芦刈 IC までの区間が考えられ、**農振解除等の対応を検討**するなど、**拠点地区形成との整合**を図る必要がある。
- ② 国道 444 号バイパスの開通により交通量が増加し、また、有明沿岸道路工事も進んでいるので、**事故の増加が心配**である。**交通安全対策に関して、地元住民の意向を汲み取る仕組みが必要**である。
- ③ 人口減少をこのまま待つのではなく、**漁業・農業をいかしたまちづくりを進めるべき**。例えば、海苔やムツゴロウ等の特産物を生かした情報発信や物産施設整備などが考えられる。



【芦刈地区懇談会の様子】



【整備中の芦刈ICと周辺に広がる農地】

市全体のまちづくりに対する主な要望

- ・ 市全体として河川の整備が遅れており、自然に対する保全も不足しているように思う。

5.2.2. 議事要旨

各地区のまちづくり懇談会の議事要旨を以下に整理する。また、各意見について、土地利用、産業振興、施設整備、道路・交通、防災、コミュニティの6つのカテゴリに分けて【】内に表示している。

(1) 桜岡地区

- ▶ 空き家は、市全体で 365 戸程度、桜岡地区は 43 戸である。ただし、これは2年前の情報であり、現在はもっと多い可能性がある。【整備】
 - ▶ 目立つような土地利用転換はなく、所有者不明の空き家・空き地も確認されていない。【整備】
 - ▶ JR 小城駅周辺が、桜岡地区の核となるエリアではないか。小城高校への通学者など、現在 75 万人程度の利用者がある。【整備】
 - ▶ 地元へ就職したいという若者が少ないこと、また、企業側からしても企業ニーズにマッチした人材が少ないといった悪循環が生じている。【整備】
 - ▶ 桜岡地区は旧小城町の中では、歴史的・地理的・心理的に一番住民が集まりやすい場所なので、中心性・拠点性のある施設を整備してほしい。公民館の支館は小さいため、50 名ぐらいしか集まらず、駐車場もない。小城公民館を使用する場合は市の行事でふさがっている場合が多く利用性が低い。【整備】
 - ▶ 小城公園がもっと整備されると利用者増が期待できる。【整備】
 - ▶ 小城市は文化サークルが 90 以上存在し、多様な年代が参加し、活動内容も多岐にわたる。こうした特性を生かし、文化活動を市の求心力の要としてはいかがか。文化政策の1つとして、文化活動の発表の場等となる文化ホールを新設して頂きたい。文化ホールは地域コミュニティをつなぐ役割を果たすと思われる。文化ホールは小城公民館の場所に整備することを期待する。【整備】
 - ▶ 古くから小城に住んでいる人と外部から新たに転居して来た人のニーズが異なり、地域行事を行なう上で支障をきたしている。祭り等のコミュニティ活動に参加しない転入者も多く、新旧住民が仲良く暮らせるコミュニティ形成が課題。【コミュニティ】
 - ▶ 青少研の活動（スポーツ大会等）は小城と三日月にまたがっている一方で、伝統文化（祭り等）は小城あるいは桜岡の一部であり、コミュニティ単位の不整合に苦勞している。【コミュニティ】
 - ▶ 新旧の住民がコミュニケーションを図るには、子供を巻き込んでいくアプローチが有効である。そのためには、子供の活動範囲と校区割を考慮する必要がある。【コミュニティ】
 - ▶ 高齢化と人口減少の影響により、祇園祭の開催にあたっては人手を借りてきている状況。特に下町地区では人材確保が一番困っているが、古くから住んでいる人が多いためコミュニティ運営はうまく行なわれている。【コミュニティ】
 - ▶ 衰退傾向の祭りを復活させることで、地域活性化や人口増大に寄与すると思う。
-

また、「氏子」の概念や役割なども廃れてきており、祭りの統合等も検討してはどうか。【コミュニティ】

- ▶ 東新町の新興住宅では、子育て世代が大量に転入してきたため、一気に小学校児童が増えたが、15年で「ゼロ」になった。年齢バランスを考えた住宅地の形成を考える必要がある。【コミュニティ】

以上

(2) 岩松地区

- ▶ 岩松地区内の中心拠点には岩松支館周辺である。住居に対するニーズも高く、住宅系の開発エリアとして適している。【整備】
- ▶ 岩松地区は今後発展する可能性を秘めており、例えば、平松病院周辺を核としたまちづくりなどが考えられる。【整備】
- ▶ スマート I C と中心拠点のネットワーク形成は必要であるものの、スマート I C 周辺地区は現在、田園風景が広がっており、できれば開発は進んでほしくない。【保全】
- ▶ 岩松地区は、蛍をみることができ、天の川がみえるなどの素晴らしい自然資源を有している。若者を中心にグリーンツーリズムの取組を行なうなど、岩松の自然を活かした地域づくりを進めて頂きたい。【保全】
- ▶ 運動公園建設跡地は土地利用上重要な資源なので、利活用を十分に検討して頂きたい。【整備】
- ▶ 同じ田畑でも山間部と平坦部では耕作に対する労働力に差がある。山間部では田畑を維持し続けること自体が大変であることに留意が必要である。【保全】
- ▶ 小城市全体として是非取り組んで頂きたい施策はエネルギーの自給であり、新産業の目玉にならないかを感じる。耕作放棄地を活用して太陽光パネルを設置するなど積極的な取組を期待したい。【整備】
- ▶ 誘致する企業の形態については、工場だけではなく、佐世保市のジャパネットたかたの事例などを参考に、新しい企業形態についても着目する必要がある。【整備】
- ▶ 岩松地区内に新しい工業団地「小城蛍の郷ファクトリーパーク」ができたが、立地面あるいはインフラ整備面で利用しにくいせいか、残り2区画が埋まっていない。企業がくると法人税も入り、財政面にも好影響を与えるため、企業誘致に向けてテナント料の割引等を検討して頂きたい。【整備】
- ▶ 観光面で清水、蛍、千葉公園は駐車場が必要である。お金が落ちるような観光にしなければいけない。【整備】
- ▶ 三日月地区や中心市街地が近いため、日常の買い物、福祉や医療等といった都市施設の利用に対して、不便は感じない。【整備】
- ▶ 岩松地区にとって、須賀神社は景観形成上重要な資源である。【保全】
- ▶ 地域振興を考える上では、観光により交流人口を増加させることが重要であり、

小城公園、清水の滝等の観光資源の維持管理を充実させるべき。ただし、維持管理予算が決まっており、限られた予算で最低限の管理をしているのが現状である。

【整備】

- ▶ 観光地のトイレが汚い。既存の施設の再整備も必要。【整備】
- ▶ 岩松地区の生活道路はリヤカーの幅を基準につくられた経緯があるため道路幅員が狭い。住宅の建替えができず、そのまま空き家になるケースがみられる。【整備】
- ▶ スマート I C は実際にできてみないと分からないが、将来的な企業誘致という面ではプラス材料と考えられる。佐賀市に新設された小糸製作所の新会社は、高速道路 I C に近いという立地が条件であったと聞いている。【整備】
- ▶ 岩松地区は山間部なので、災害被害に対する不安と常に隣り合わせの状況にある。

【安全】

- ▶ 専業農家で生計を立てるのは難しく、農業と他の仕事との兼業が必要である。【整備】
- ▶ 岩松地区に若年層を定住させること、そのために職場を確保することが重要課題である。【コミュニティ】
- ▶ 中山間地域にも若者はいるが、流出してしまう。若者にとっても魅力ある地域づくりをお願いしたい。【コミュニティ】
- ▶ コミュニティ維持のための中心は祭りである。しかし、近年では古くからの住民が減少し、新しい転居者が増加したことで、祭りに対する意識の差が生じている。

【コミュニティ】

- ▶ 校区の区長会は岩松支館で月に 1 度くらいの頻度で実施している。区長会のほか、本日の地区懇談会のような会議を今後定期的に行なっていくべきである。【コミュニティ】

以上

(3) **晴田地区**

- ▶ 晴田は山間部を多く含む地区であるが、農振が標高 800m の山の方まで指定されており、開発が制限されている。観光開発に力入れていきたいため、農振解除が必要。また、総合庁舎（三日月）周辺への機能集約の観点から周囲 500m 又は 1km 程度の農振についても解除すべきである。【整備】
- ▶ 一方で、山間部の農進地域の解除は、災害面や景観面との調整が必要である。【保全】
- ▶ 道路整備と連動して商業施設は誘引される傾向にあることから、先行して受け皿を準備しておくことが必要。【整備】
- ▶ アーバン（スーパー）が歩いて行ける距離にあったが、潰れて不便になった。【整備】
- ▶ 支館周辺を拠点地区とし、ホームセンター、スーパー等を誘致して頂きたい。その場合、まずは農振解除が必要。ただ商業施設側から見たら、ここに立地して採

算性がとれるかは疑問。【整備】

- ▶ ICチェンジ周辺は、開発予定地にすべきである。【整備】
- ▶ 実感として空き家増えている。空き家としては、君ヶ坂の長屋住宅（炭鉱の社宅、20戸程度）がある。【整備】
- ▶ 運動公園跡地の整備について10年近く進展していないことが問題である。まちづくりの中に運動公園が位置付けられていない都市はなく、早急に整備を進めて頂きたい。【整備】
- ▶ 旧小城町では、下水道基本計画を策定していて議会承認待ちの段階まできていた。それが4町合併により実現が遅れたことに対して不満に感じている。【保全】
- ▶ 地盤が軟弱な牛津、芦刈地区を公共下水整備エリアとしたことが理解できない。地盤沈下が想定され、ランニングコストが増大することが懸念される。合併浄化槽のほうがよかったのではないか。将来的に市財政を赤字にする主要要因となるだろう。【保全】
- ▶ 八丁ダムの利活用を再度考えるべき。草スキーを整備したが、閉鎖されておりもったいない。伐採等のランニングコストも安いことから運用すべき。川内分校の活用も考えてほしい。【整備】
- ▶ 旧小城町以外の3町より、支館不要論が出ているとの噂を聞いた。しかし、支館はコミュニティ施設として機能している重要な施設であるため、存続させてほしい。【コミュニティ】
- ▶ 小城市の背骨となる南北方向の道路と肋骨となる補助道路の整備を進めるべきである。【整備】
- ▶ 多久佐賀道路などのバイパス整備はもろはの剣であり、渋滞は解消されるが、中心市街地の空洞化が発生する可能性もある。【整備】
- ▶ 通学児童を考えると、県道337号線（天山公園線）に歩道を設置してほしい。【安全】
- ▶ 晴気川の氾濫の際など、晴田支館は避難所に成り得る。ただし、もう少し嵩上げした上で、設備等の充実も必要である。【安全】
- ▶ 晴気川上流では護岸の内側まで浸水したので、対策をお願いしたい。【安全】
- ▶ 例えば、交流プラザ（小城庁舎跡地）を避難所にするなら防災上必要な設備があるかの検討が必要。また、避難場所までの避難路の整備及び明確化が必要。【安全】
- ▶ 災害時の市役所からのアナウンスにおいて「避難指示」、「避難勧告」、「避難命令」などの言葉の定義ととるべき行動を明確にして頂きたい。【安全】
- ▶ 区長会は1～2カ月置きに実施しており、イベント準備のときは必ず実施している。【コミュニティ】
- ▶ 振興会の現在の活動は、地域で解決できない事柄について振興会が代行している状況。【コミュニティ】

以上

(4) 三里地区

- ▶ 脊振の事例として、坪 100 円など安価で土地を購入できる優遇策を行なっている。このような施策を行なえば三里地区でも定住者の増加が期待できるのではないかと。
【コミュニティ】
 - ▶ 農振とも関連するが、農地の中にまばらに住宅が立地するのは避けるべき。【保全】
 - ▶ 児童のいるファミリー層を増加させるために宅地分譲が必要と思う。【整備】
 - ▶ 三里地区には転住者が少なく、70～80 年前から住み続けている世帯がほとんどである。道路の整備が遅れているため、住宅事業者が入ってこない。【整備】
 - ▶ 三里地区は人口減少が著しい地区であるが、定住促進など市の取り組みはあるのか。→今年度から企画課で定住促進奨励金制度の助成をしている。三里地区は、他の地区より加算される。→制度を知らない人が多いので、もっと PR をすべきである。空き家バンクも同様である。【コミュニティ】
 - ▶ 空き家は他地区より少ないが、独居老人が多いため、今後、空き家は増加すると予想される。例えば、船田の集落では 19 戸中 3 戸が空き家。1 戸は荒廃している。【整備】
 - ▶ 三里地区では、人口減少が止まらないことが問題である。三里小は平成 26 年度からたったの 2 クラスになる見込み。20 年後は更に 6 割落ち込むだろう。人口減少を見越した住宅政策が必要である。【コミュニティ】
 - ▶ 新しい産業をつくるアイデアも必要である。遊休地を利用して太陽光発電はできないか。また、鯉を三里で養殖し、清水の滝の鯉こく料理や加工品として利用。あるいは、黒豆の改良について研究し、小城羊羹の材料として利用するなど。【整備】
 - ▶ 鳥獣被害は、電気柵での対応だけでは限界がある。駆除が必要。【保全】
 - ▶ 観光資源としては、梅があるが、2 週間程度の期間限定であり、また、収入源に成りにくい。【整備】
 - ▶ 三里地区は限界集落ほど深刻ではなく、地域に対して不満があるかと言われれば、そこまで多くない。病院も車で 5 分、お金の引き出しもタクシーで支所まで行くことができる。【整備】
 - ▶ 空き家も受入可能な管理がされていれば、借り手のニーズもあると思う。【整備】
 - ▶ 住宅を整備したとしても、三里地区からの転出者（子供等）が戻ってきてくれるかは分からない。【コミュニティ】
 - ▶ 三里支館周辺が三里の集約拠点になった場合、住宅機能と居残り児童を預けることができる教育施設ができれば喜ばれると思う。【整備】
 - ▶ 定住と開発を促進するためには、道路が重要である。広域農道を県道に昇格して、整備をお願いしたい。【整備】
 - ▶ バスの乗り場まで歩けない高齢者もいる。仕方なくタクシーを利用している状況。【整備】
-

-
- ▶ 三里の災害のほとんどは晴気川と牛津川に伴う水害である。特に、下右原は水害の常襲地帯であり、対応が求められる。【安全】
 - ▶ 県の土木事務所に、晴気川と牛津川の合流部付近（晴気川側）の浚渫（しゅんせつ）工事の要望を出している。【安全】
 - ▶ 今年から振興会会長もやっており、残すべき地域資源の調査、防災に向けての調査などを始めている。今後の三里地区の発展に向けた地域づくりが必要であるが、簡単なようで難しいテーマである。【整備】
 - ▶ 三里小は、田園環境の中に立地していること自体が財産と思う。感性を磨くのに適している。農業学習などを学校教育に取り入れ、実体験ができる小学校としてPRできればよい。【コミュニティ】
 - ▶ 子供が少なくなってきたので、伝統ある祭りを実施する頻度が減った。昔は準備、掃除等の共同作業を通じた子供の教育の場であったが、近年では大人が集まって酒を飲む場となりつつある。【コミュニティ】
 - ▶ 高齢者ばかりとなり、斜面整備等の地域の維持管理が困難になりつつある。独居老人も増加傾向にある。【コミュニティ】
 - ▶ 消防団も若者がなかなか入ってこないため、高齢者が脱退できない状況。組織の新陳代謝が滞っている。【コミュニティ】
 - ▶ 三里支館は、サークル活動等の場として盛んに利用されている。支館をより活用し、三里独自の活動や事業を活発にしていかなければならないと思っている。【保全】
 - ▶ 振興会の主たる活動は梅まつりしか行っていない。今後、自主防災活動も行っていきたいと考えている。【コミュニティ】
 - ▶ 区長会の定例会は行なっておらず、イベントの前など必要に応じて実施している。平均して2カ月に一度くらい開催している。【コミュニティ】
 - ▶ 人口が減っている校区は、校区の見直しで対応できないか。【コミュニティ】
 - ▶ 婦人会は、現在、個人会員で参加している状況である。老人会もなくなっている。【コミュニティ】

以上

(5) 三日月地区

- ▶ 三日月は佐賀市まで近い割に土地価格が安く、住みやすい場所と感じる。だから30年間で人口は倍増したのだと思う。【整備】
 - ▶ 小城市内のどのエリアに重点を置いたまちづくりをするか明確にするべきである。個人的には、新庁舎の移転に合わせて、三日月を市の拠点としてまちづくりを進めるべきと思っている。【整備】
 - ▶ 本庁舎は、庁舎のみできてもどうかと思う。庁舎周辺に金融機関など生活利便施設が集約できれば、効率的に生活できる。面的な整備を考えていただきたい。【整備】
-

-
- ▶ 集落によって、空き家の状況は異なるが、高齢者世帯が増えているため、今後、全体として空き家は増えることが予想される。10年後の人口動態を見据えた住宅施策を行なう必要がある。【整備】
 - ▶ 個人的見解であるが、三日月では住宅の過剰供給の状態にあると感じる。【整備】
 - ▶ 小城市の産業の中心として何を据えるか。農業なら今後農地転用を認めないなど、小城市の目指すべき産業の姿をはっきりとして頂きたい。また、土地利用方針を決める判断基準を明確にし、方針の中でできること、できないことを明確にしたほうがよい。小城市がなにをしたいのかわかりづらい。【整備】
 - ▶ 農政審議会が先日行なわれたが、市役所周辺も農振解除が認められなかった。解除されないと商業施設の進出もできない。【整備】
 - ▶ 法律と地主の土地利用意向にギャップがある。国は食糧自給率の維持の観点から土地規制（農振）しているが、自由に自分の土地を使いたいという地主も存在する。【整備】
 - ▶ 土地利用政策は単独地区で決められる問題でなく、極端に言えば上位官庁（国、県）の調整事項。市としてその範囲でできることを考えるべき。【整備】
 - ▶ 土地利用規制は、民間（スーパーマーケット等）による開発を阻害する要因となる。【整備】
 - ▶ 田園風景など守るべきエリアと利便性を高めるエリアとをしっかりとゾーニングし、虫食い状の土地利用は避けるべき。【保全】
 - ▶ 商店街という形態ではないが、三日月の中心は庁舎周辺だと思う。【整備】
 - ▶ 農振も白地地区で長年開発されていないところもある。一方、青地地区で開発の要望があっているので、農振の見直しと組み替えが必要である。【整備】
 - ▶ 織島地区の佐賀外環状線沿いは、日用品の買い物など生活利便施設が少ない。【整備】
 - ▶ スマートICは、工業団地を作るとか、スマートICを作る理由や他の関連性が必要。今は、わかりづらい。【整備】
 - ▶ 計画段階でゾーニングを行ない、市街地を集約するべき。公共下水道の整備・維持管理コストが財政を圧迫することになる。【整備】
 - ▶ 三日月には観光資源があまりない。土生遺跡くらいしか思いつかない。【保全】
 - ▶ 三日月にはパートなど非正規雇用の場は増えたが、正規雇用の場がまだまだ少ないように感じる。【整備】
 - ▶ 総合運動場の問題についても検討して頂きたい。能力のあるスポーツ選手が市外に流出してしまう。【整備】
 - ▶ 小城市内に県立の施設を誘致することも有効。集客力があり、維持管理コストも県負担となる。【整備】
 - ▶ 商業施設や住宅の開発動向に最も影響を及ぼすのは、道路整備であり重要。【整備】
 - ▶ 他地域に比べ、三日月地区は交通事故が多い。変形交差点が多いことがその原因
-

と考えられ、改良して頂きたい。【安全】

- ▶ また、交通量に対して交通容量が不足していること、狭い区間が多いことも交通安全上の問題。【安全】
- ▶ 高齢化により交通弱者が増えれば、民間業者が商売としてバス事業を立ち上げるだろう。【整備】
- ▶ 先日の大雨で祇園川に決壊しそうになった。祇園川北の集落は、決壊した場合は、ゆめりあに行けない。祇園川の両側に避難所を設けるなど、実態にあった避難所の配置をお願いしたい。【安全】
- ▶ 吉原集落では、選択制で桜岡小学校も選べるようになった。吉原集落は人口増加にあるが、新住民は桜岡小学校に、古くからの住民は三日月小学校に入学させる傾向にある。選択した小学校によって子供クラブも分けてあげたい気持ちはある。【コミュニティ】
- ▶ 三日月地区では新住民が多いが、自治会が主体となり、一緒になって伝統文化に取り組むことができている。【コミュニティ】
- ▶ 火つけ祭り（男の子の祭り）などは子供減って、なかなかできない。結局、母親が参加している状況。【コミュニティ】
- ▶ 区長会の開催頻度は、定例会年4回と臨時開催。【コミュニティ】
- ▶ 三日月では、他地区に比べるとコミュニティ活動に関する議題はあまりでない。【コミュニティ】
- ▶ 三日月地区も集落によっては、人口の増減があり、戸数が少ない集落もある。【コミュニティ】
- ▶ アパートの建設が多い。アパートの方々との地区運営は難しいものがある。【コミュニティ】

以上

(6) 牛津地区

- ▶ 都市計画マスタープランでは、小城駅周辺が小城市の中心となっているが、まちの中心は行政が決めることではなく、市民が決めること。たった15人程度の市民の意見で市全体の方向性を決めるのは問題がある。中心でない地区の住民としては不満を感じる。【整備】
- ▶ 中心という言葉は様々な意味がある。現在は牛津庁舎が中心だろうが、将来的には撤去されるため、牛津の場合、「牛津駅北口から続く商店街」が中心だと思う。【整備】
- ▶ 住民の生活環境を守るのは、行政か、それとも民間のまちづくり会社なのか、誰がまちづくりの旗振り役になるかを明確にする必要がある。【整備】
- ▶ 牛津駅南口では、6m道路の整備が途中で途切れている。この先に市営住宅を誘致することも考えられる。4つの市営住宅の統合の動向次第では、牛津駅南の開発も一気に進むのではと思っている。【整備】

-
- ▶ 友田は農振地域で天満町は農振除外地域であるが、天満町の住宅開発地周辺は、雑草が生い茂っており、地域環境が悪くなっている。土地利用規制は何らかの形で必要と思う。【整備】
 - ▶ 牛津駅南は開発してもいいのではないか。【整備】
 - ▶ 近隣に工場が立地したなど、用途などで困ったことはない。【整備】
 - ▶ 人口増加に向けては住宅整備が必要であり、農振地域と農振除外地域の線引きに留意する必要がある。【整備】
 - ▶ 住宅地と農地の境界をどうするかという問題がある。例えば、開発した区域内の道路の幅は、確保されているが、その間の道路は、未整備なので、狭いままである。開発においては事前協議できるようにお願いしたい。特に道路、水路の問題が多い。【整備】
 - ▶ 牛津地区では、商店街の活性化が重要課題である。【整備】
 - ▶ 歴史的資源である牛津赤れんが館や牛津会館もまちづくりに活かすべき。商店街の活性化と連携を取ってほしい。【保全】
 - ▶ 佐賀市も近年、公共公益施設を中心市街地に整備を行い、人の流れが戻ってきた。三日月に行政機能が集約すると、行政機能を失った地域は寂れてしまうので、牛津地区にも行政機能の一部を残して頂きたい。社会福祉協議会の本部を牛津庁舎跡地に移動させる等も考えられる。【整備】
 - ▶ 4町を比較した場合、小城町は庁舎跡地の交流センター建設構想、芦刈町は道路整備に合わせたコミュニティホールや保育園・幼稚園の整備、三日月町は本庁舎計画がある。一方で、牛津町は庁舎跡地利用の計画も進まず、最も整備が遅れている。牛津住民は合併に対して失敗だったと不満を持っている人が多い。4町均等な整備をお願いしたい。【整備】
 - ▶ 市長と語る会では、牛津庁舎跡地は公園と駐車場を整備すると市長より言われた。牛津庁舎跡地は、長崎本線の JR 牛津駅、また、2つの国道に近接している市内での一等地であり、公園としての利活用はもったいないと感じる。人々との交流はどうなるのか。活動の場はどうなるのか。打合せの場所がない。交流スペースがほしい。放課後児童クラブもできる。芦刈地区も交流スペースが整備された。庁舎跡地の利用と活用は、重要で優先順位が高い。牛津庁舎跡地は公共・交流・活動ゾーン。【整備】
 - ▶ 住民を含めた庁舎跡地利用検討委員会を設置して頂きたい。市役所だけで判断するのはおかしい。利活用する団体、PTAや市民の意見を聞くべき。【整備】
 - ▶ 住民活動の現在の拠点の拠点は牛津庁舎（議会棟）である。牛津地区は市内でも住民活動が盛んな地区であるため、牛津庁舎に代わる交流拠点が必要である。【整備】
 - ▶ 牛津庁舎跡地の利用として、福祉施設、医療施設等の整備も考えられる。【整備】
 - ▶ 小城市の中で牛津町だけが児童館がない。【コミュニティ】
 - ▶ 民生委員の視点からみて、市営住宅の住環境が悪化している（ドアの開きが悪いなど）。旧牛津町の住宅マスタープランの中では、建替える計画となっていたが、
-

4町合併したことで延期されている。建替えと一体的に整備する予定の下水道も未着手の状態。今後、質の高い市営住宅を整備することで、人口増加につなげてほしい。建替えは、福祉面でも重要である。【整備】

- ▶ 土地利用面で困っている点は特になく、どちらかという道路や下水道といったインフラ整備の施策を優先して頂きたい。【整備】
- ▶ 体育館は、利用率が高い。その理由は、牛津駅が近いからである。庁舎跡地は、JRを活かした拠点整備をしていただきたい。【整備】
- ▶ 牛津駅南口の市営住宅の新規整備と合わせて、南口新設により利便性向上を図って頂きたい。自由通路は、エレベーターが必要である。タクシーとの連携も必要。【整備】
- ▶ 友田地区の道路は、合併前から拡幅するよう要望を行っていた。牛津は、行き止まりの道路が多い。線路で遮断されている。【整備】
- ▶ 長崎新幹線整備によって列車本数が32本増発によって、既存の踏み切りは開かずの踏切になる危険性がある。牛津地区としては新幹線の開通効果はなく、反対である。せめて、高架整備をお願いしたい。【整備】
- ▶ 人が増加すればコミュニティも維持できる。人口を牛津の方にも増やしていく方策が必要。農振規制と合わせて検討する必要がある。【コミュニティ】
- ▶ 農振解除により、既成住宅と新規住宅が混在する集落では、住民間のコミュニティがうまくいかない問題が発生している。【コミュニティ】
- ▶ 芦刈に県道江北芦刈線が開通すれば、牛津の商店街も厳しい状況となるが、コミュニティがあれば、なんとかできると思う。セリオには愛着がある。【コミュニティ】
- ▶ 区長会、商店街で要望してはどうか。また、CSOを立ち上げて行政と協議する組織が必要である。【コミュニティ】
- ▶ 商店街沿いのイベントも産業祭以外で盛り上げる必要がある。【コミュニティ】
- ▶ 他の事例では、空き店舗を活用してCSOなどコミュニティ組織の活動拠点にしているところもある。【コミュニティ】
- ▶ 本日の地区別懇談会のような住民が話しあえる場を今後も是非継続して開催して頂きたい。【コミュニティ】

以上

(7) 砥川地区

- ▶ 3年くらい前に撤退した三菱マテリアルの跡地利用については、民間ディベロッパからすると少し規模が大きすぎるため、小城市として有効利用を検討して頂きたい。【整備】
- ▶ 耕作放棄地が増加し、果樹園が以前の1/4の面積になってしまった。価格競争の問題もあるだろうが、今後、高齢化と相まってますます耕作放棄地は増加するだろう。【保全】

-
- ▶ 砥川には中心拠点といえるエリアがない。以前、泉にスーパーがあったときは中心性があったかもしれないが、基本的には砥川を中心というものを意識したことはない。【整備】
 - ▶ 丘陵地である「陽だまりの丘」の眺望が良く、住宅地開発の場所として適していると思う。【整備】
 - ▶ 若者の流出により、農業を引き継ぐ人は少ない。若者をいかに引き留めることができるかという観点で施策を打ってほしい。【整備】
 - ▶ 砥川地区では、人口を増やすということが大切である。分譲住宅をいくらかでもいいので、開発してほしい。人口が増えれば、商店も売れる。【整備】
 - ▶ 空き家は多いが、受入可能な状態にあるかが問題。また、空き家バンクの買い手・借り手が砥川のどのような魅力に惹かれてくるのかということも考える必要がある。【整備】
 - ▶ 牛津中心街には、牛津駅東側の踏切を通過する必要があるため、江北町の方が行きやすい。牛津中心街方面だと踏切よりも手前にあるユートクに行く。ただ、自動車を運転できない高齢者は、近くのコンビニくらいにしかいけない。【整備】
 - ▶ 寺町もアパートが出来て、若い人は来る。しかし、いつ出ていくかわからないので、家を建てて定住することが大切である。【コミュニティ】
 - ▶ 仕事先が少ないため、若者が定着しない。工業団地誘致などの人口増加施策してほしい。しかし、現実的には現在の社会情勢で工場誘致は難しい。また、今の稼働形態は機械任せであるため、雇用に寄与しない可能性がある。【整備】
 - ▶ 国の農業政策の範囲だろうが、若者にとって魅力的な産業でないため、全国的に後継者問題が発生している。機械化が進み、耕作が楽になっているが、農地を人に貸して現金収入を得て、自身は会社員という形態をとる農家が増えている。農業施策が重要。後継者がいない。【整備】
 - ▶ 工業団地は地元採用枠がなく、ほとんど市外の人を雇用している。地元採用がない場合は、メリットがない。【整備】
 - ▶ コンビニに併設した朝市・夕市が開かれる施設が地域にほしい。ターの空きスペースを活用できないか。【整備】
 - ▶ 女性は買い物に対して、品物に触れて、選ぶという行為に楽しみを覚えるため、宅配よりも行商、移動販売車のほうがよい。【整備】
 - ▶ コミュニティバスは運行本数が少なく、また、高齢者にとっては「待つ」という行為がつらいため、あまり利用されていない。【整備】
 - ▶ 高齢者は、自転車で牛津方面に買い物に行かれるが、牛津大橋の坂が大変である。【整備】
 - ▶ 砥川地区は水害がよく発生し、例えば、泉集落の生活道路における浸水が起こる。九州北部豪雨では、牛津川のポンプ場の故障によって水が逆流し、水害が発生した。1日で水が排水できない場合は、買い物難民になる。【安全】
 - ▶ 砥川小学校や牛津庁舎に避難するのは却って危険に感じるため、避難所配置の検
-

討が必要。砥川小学校は浸かり、牛津庁舎は砥川の人には行かない。【安全】

- ▶ 区長アンケートでは、お祭り、文化財などを残したいという希望が多いが、地域でも最近、八幡神社の伝統文化を継続できないかと話し合っているところである。
【コミュニティ】
- ▶ 区長会と宮総代とが話し合い、秋祭りを砥川地区全体で取り組み始めた。鉦、太鼓、宮座の人材確保が難しく、持ち回り当番となる部落の負担が大きいことがその理由。【コミュニティ】
- ▶ 会社員が多くなり、祭りの平日夜の開催は厳しいという意見も出てきている。委託も視野に入れるといった意見もでてきている。【コミュニティ】
- ▶ 地区の若者も本日のような地域づくりの話し合いの場を含めるべき。【コミュニティ】
- ▶ 空き家は借り手よりも買い手をみつけたほうがよい。祭りの時や清掃などについても集合住宅（アパート）の住民は協力的でない。【コミュニティ】
- ▶ 砥川地区では、地区全体での話し合う機会がほとんどなく、ごく稀にある大規模な集会は JA 砥川支所を借りている。また、バレーボールサークル等は砥川小学校を利用している。【コミュニティ】

以上

(8) 芦刈地区

- ▶ 開発すべきところは、開発しなければいけないし、農地を保全すべきところは保全しなければならない。農地として不適なところは、開発を誘導すべきである。
【整備】
- ▶ 民間の開発は、タイミングが重要なので、開発協議で時間がかかると、別の場所に持っていかれる。【整備】
- ▶ 都市マス策定時に同様のヒアリングを受けたが、その後の流れが不明。江北芦刈線が開通すると沿道を住宅・商業地にするとの話であったのに、商業施設が出店を希望した際に農振地であるためできないと市役所で拒否された。市役所の横の連携がとれていないのではないか。【整備】
- ▶ 県道 43 号と国道 444 号バイパスの交差点から建設が進められている有明沿岸道路の IC の区間に商業施設を整備すべきである。そのため、農振除外等の商業施設が出店可能な条件整備の検討をお願いしたい。【整備】
- ▶ 市全体として、河川の整備が遅れており、自然に対する保全も不足しているように思う。また、少子高齢化で荒れた農地が増え、農地の法面の崩落が多いので、対策が必要。【安全】
- ▶ 牛津、小城は商業、芦刈は農業と市内で住み分けを図るべき。【整備】
- ▶ 農業後継者が少なく 10 年後が不安である。農業法人設立援助や農地集約など農業振興を考えて欲しい。【保全】
- ▶ 佐賀大学の公開講座でワークショップを行ったが、市内の共通問題は人口減少・

高齢者問題がある。自然地が荒れるなどの地域共通の課題があった。人口減少をこのまま待つのではなく、漁業・農業をいかしたまちづくりを進めるべき。例えば、海苔やムツゴロウ等の特産物を生かした情報発信や物産施設整備など。【整備】

- ▶ 芦刈庁舎の跡地利用についての情報が欲しい。物産施設は前面通行量が少ないので、難しいと思う。【整備】
- ▶ 芦刈の日常の買い物は、江北のイオンや牛津のユートク、久保田のスーパー等それぞれの集落に近いスーパーに行くことが多い。できれば、国道 444 号バイパスに商業施設が欲しい。【整備】
- ▶ 国道 444 号バイパスも開通し、佐賀市に近いので、住宅地としては良い条件にあると思う。市営住宅などを建設すれば転入者も増えるのではないかと。【整備】
- ▶ 国道 444 号バイパスの開通により交通量が増加し、有明沿岸道路工事も進んでいるので、今後は事故が心配である。事後連絡ではなく交通安全協会に事前に相談するか、地元が要望する場所・方式（押しボタンではない方式）で信号を設置してほしい。【安全】
- ▶ 芦刈小学校の西門前に横断歩道がない、車道に色を付けて車道と歩道を分けるべき。三条の交差点は、ラインを交差点に向かって狭くしているので、そのようにしてほしい。牛王の新たな 444 号の交差点は、南から東に右折するとき、進入を間違っている。久保田の徳万の交差点のように青ラインで誘導すべきである。【安全】
- ▶ 旧国道 444 号沿いに住んでいたが、新たにバイパスに変更となり、交通量が少なくなり、安全に暮らせる。道路は、まちづくりに大きな影響があると感じた。【安全】
- ▶ 道路を開通したら、安全施設を対応してほしい。【安全】
- ▶ 高齢者が利用する巡回バスと芦刈町乗合タクシーは本数が少ない。単身高齢者が医療機関などに向かう場合にタクシーを利用している姿を見かける。【整備】
- ▶ 以前は度々牛津川が氾濫したが、上流にダムができてから、浸水被害がなくなった。しかし、高潮が発生した場合、堤防周辺の集落は孤立するとおもわれ、不安を感じる。【安全】
- ▶ 各地域の婦人会のまとまりが悪く、個人の会員となっている、婦人会の再構築が必要。【コミュニティ】
- ▶ 区長会は年 4 回開催しているが、芦刈全体のコミュニティでの意見交換を行う場は無い。【コミュニティ】

以上